

The Historical Development of Physiological
Thought. Harner, New York, 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責とみなす。

編集後記

横浜でおこなわれる第一〇五回総会の抄録号をおとどけする。七七題という記録にのこるような多数の一般演題の申込みによって、活気あふれる総会が演出されるものと思われるが、そのために複数の会場を設営しなければならなかった総会事務局のご苦労は、察するにあまりあるものがあつたに違いない。演題数の多さだけでなく、会場での活発な議論が交わされるものといまから期待するところがおおきい。

抄録のほかにはアテネ大学ヒスロス・マルケトス教授(医史学)の論文を取録した。これは一九九三年に熱海のMOA美術館においておこなわれた本学会共催の「ヒポクラテスと伝統医学と現代医学」講演会の特別記念講演である。その当時から「現代に息づくヒポクラテス医療とその予言的な役割について」簡潔にまとめられた講演であつたと、おおくの注目をあつめていた。翻訳によって本誌(三九巻四号)の巻頭を飾つたことはご存じのところであろうが、ぜひ原文

八 刷り上がり一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実

費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし、実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒二三〇〇三 東京都文京区本郷三一二一五

財団法人日本学会事務センター内、住友不動産本郷ビル七階
日本医史学雑誌編集委員会

でよんでみたいとのご要望が編集委員会によせられたので、マルケトス教授の息づかいを伺うことができる原文に接していただくことをねがってここに掲載した。以前の翻訳とはまったくちがった味わいを感じていただければと願っている。

最後に深くお詫びをしなければならない。それは十分な確認をおこたつたばかりに、誤つて二号にわたつて役員氏名の幹事欄に瀧澤利行先生のお名前を掲載してしまつたことである。当事者である瀧澤先生にたいしてはもちろんのこと、会員のみなさまにも多大なご迷惑をおかけしたことを心からお詫び申しあげる。

数々の瑕疵があつたにちがいないが、三期にわたる編集委員長長の職をなんとか無事につとめあげることができたのも、会員のみなさまからの温かいご支援とご協力の賜と深く感謝するものである。さらに内容の充実した学会誌が刊行されることを願つて退任のご挨拶とする。

(深瀬 泰巨)